



海外研修KYOのあけぼの会  
会長 田中 田鶴子

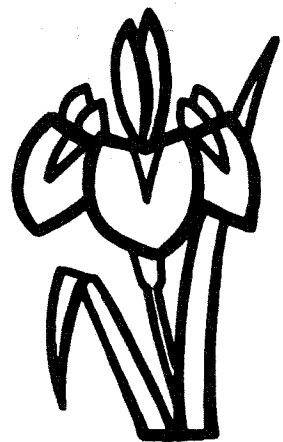
新世紀の幕開けの年となりました。会員の皆様には、お変わりなくお元気で活躍のことと拝察申し上げます。

平成元年に創立された当会も、今年で13年目を迎え、会員相互の交流を図りながら、地域社会活動のリーダーとしての資質向上を目指す様々な取組みが実施できましたことを嬉しく感じております。

2年前には男女共同参画基本法が制定されましたが、今、男女に関わらず多様なライフスタイルを選択できる社会が求められております。21世紀においては、男女がお互いを認め合い、支え合い、パートナーシップを組むことのできる社会の実現が必要です。今、女性のリーダーの活躍がますます重要になっているといえます。

当会では、秋の風情の漂う11月、嵐山にあります花の家にて研修会を実施いたしました。チューリッヒご出身であるラング・イボンヌ氏をお迎えし、「人はなぜ旅をするのでしょうか」というテーマで、外国人女性から見た日本の女性についての講演を行っていただきました。国際交流を促進すると同時に、女性に関する新しい視点について学ぶ機会となりました。

今後も、京都の女性関係団体のリーダーによるネットワーク組織として、海外研修、国内研修で得た国際性や発想を、地域活動に還元し、「海外研修KYOのあけぼの会」が地域社会の発展に貢献できるよう、会員皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



表題「てるびっと」は、京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語（京都府友好国）「あけぼの」の意味です。  
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものを表紙絵としています。

▶2000年度総会及び研修会◀

日時 平成12年4月28日(金)午後1時30分～  
会場 京都府国際センター研修室

★総 会

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 来賓祝辞
4. 議長選出
5. 議 事
  - ① 1999年度事業報告
  - ② 1999年度収支決算報告
  - ③ 1999年度会計監査報告
  - ④ 2000年度事業計画(案)審議  
※12月 研修事業  
※10月13日・14日  
KYOのあけぼのフェスティバル
  - ⑤ 2000年度収支予算(案)審議
  - ⑥ その他
6. 閉 会

★講 演 会

「京都府国際センターの役割と  
わたしたち府民に求められるもの」  
財団法人京都府国際センター常務理事 吉田 三枝子氏

# 第12回KYOのあけぼのフェスティバル2000

ローカル グローバル  
地域から地球へ～ あなたの行動で21世紀を創ろう～

平成12年10月13日(金)・14日(日) 於：京都府民総合交流プラザ

今年度の「KYOのあけぼのフェスティバル」は、男女が共に生き生きと、自分らしい生き方の出来る男女共同参画社会の実現を目指して開催されました。参加者が、小グループに分かれ自由に発言し、互いに論議を深めさらに全体へと発展させていく、参加者自身が主役の討論会「ワークセッション」が好評でした。

## ワークセッション

### ジェンダーフリーで、生きやすい風土に変える。

— いま、自分は何をしたいのか。自分はどう生きたいのか。 —

テーマ ①女性が変れば社会は変わるか。 ②働く女たち。 ③家族を考える。

#### 「ワークセッションに参加して」

瀧 静子

ワークセッション「いま、自分は何がしたいのか、自分がどう生きたいのか」の中でテーマ②「働く女たち。」に参加致しました。参加人数約40名で4グループに分かれて意見交換をしました。筒井清子さん（京都府女性政策推進専門家会議議長）に助言者として、同席いただき、専門的なお話を伺いながら話し合いました。

男女共同参画社会づくりが日常言葉として、新聞、テレビ、雑誌などあらゆる情報機関を通して耳にしている今日この頃ではありますが、果たして今、働く女性達の現状はどうでしょうか？ 次のような問題が多くありました。

1. 女性の賃金はやはり低い。
2. 子供を育てながら働くしんどさ。
3. 中断。再就職は損が得か。
4. 増加するパートタイマー。



また、次のような皆さんの御意見がありました。

- 家庭と仕事をもっているが、パートは賃金が安く保証がないのが現実。しかし、経営者側からみれば、パートはありがたいのでは……
- 男女の差はあまり無い
- 30年前夫の出張に同行し、京都にきて以来、日本を親しみやすく愛すべき国と感じ、京都を第2の故郷と呼ぶようになったスイスのラング・イボンヌさんが、このセッションに参加され、スイスでも共働きは、70%に達しているが、女性の賃金は低く、管理職になれない。自分のPRをし、勉強することが大事であると話されました。
- 公務員で、常勤の環境では、男女差はない。しかし、子供が育って再就職して頑張っても力の差を感じる。夜勤の仕事などは、保育環境がまだ不完全でできない。
- パートでも保証があるかないかは、自らの積極的な働きかけにより変わる。
- 家族の理解や男性の意識を変えていかないと共働きは難しい。

結論としては、専門的なことを身につけ、女性自身が力をつけ、人に負けないように常に勉強し、努力すれば待遇はよくなる。すなわち、性ではなく能力の問題となる。

女性の地位の観点から考えれば、上記のような答えが出てはいますが、家庭との両立という観点からすれば、家族や男性の理解・意識も変えていかなければ、たとえ努力の結果、会社の待遇がよくても、健康や家庭に問題が発生する可能性が多い。結局女性は仕事をとるか、家庭をとるかになってしまい、職はあっても経済的自立はむずかしいのが現状です。

21世紀に入り、IT時代をむかえ、社会の構造が徐々に変わるにつれて、このような問題も少しずつ解消されていくのではないのでしょうか。